

立命館災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【準備号】 2011年11月25日発行

10月12日、立命館災害復興支援室遠野分室を開設

沿岸被災地の後方支援拠点に

災害復興支援室は、2011年10月12日より、岩手県遠野市が主催する後方支援会議連携調整会議にメンバーとして参加し、情報収集を行っています。そして、遠野市の総務課のご厚意により、遠野市役所西庁舎内に立命館災害復興支援室遠野分室を設置させていただきました。

遠野市は、沿岸の被災地（岩手県宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市など）に陸路にして約1時間、ヘリコプターでは約15分で移動することができる立地環境にあります。また、市内の地質も概ねが花崗岩ということもあり、安定した地盤という特性を有しています。

そのため市では、宮城県沖地震への備えとして、2007年以降、津波・地震災害発生時の後方支援拠点となることを視野に、各種支援隊の宿泊場所や物資のための施設整備を進めてきていました。具体的には自衛隊、警察、消防、医療機関、住民との合同防災訓練も複数回重ねてきました。

このような取り組みもあって、今回の地震では、全国から多くの支援チームが遠野市に集結し活動を展開しました。現在も、遠野市に拠点を置き活動する組織や、沿岸の被災地で支援を行う組織が、遠野市役所で隔週開催される「後方支援会議連携調整会議」に集まり、最新の情報の共有や、支援面での連携に向けた情報交換を行っています。

他組織の取り組み紹介

遠野市および岩手県沿岸地域では、様々な組織が活動を展開しています。後方支援会議連携調整会議メンバーの活動をご紹介します。なお、現地のニーズは頻繁に変化し、冬期に向けては、瓦礫撤去等の活動の多くは一定収束し、被災者の訪問やコミュニティの再構築などの「ソフト面」の活動が増加しています。

遠野まごころネット

沿岸地で支援活動を行う様々な民間組織に遠野市、市の社会福祉協議会も加わるネットワーク団体です。現地での要請と、ネットワークが企画する支援プロジェクトに関し、多種のボランティア活動が行なわれています。

- ・瓦礫撤去、家屋や側溝の泥かき清掃
- ・田畑の回復のための土壌改良活動
- ・ソフトマッサージや足湯サービスと傾聴活動

・社会福祉協議会では、沿岸被災地へのボランティア送迎用バスを活用し、ボランティアが活動中の昼間の時間帯で仮設住宅避難者の方々と遠野市内の温浴施設に送迎し、入浴の支援を行っています。

遠野市役所文化課プロジェクト

- ・被災地の図書館を復興させるための「三陸文化復興プロジェクト」の実施
- ・津波に飲み込まれた資料や図書を修復する資料復旧作業

東京大学

- ・救援・復興支援室遠野分室の設置：大学職員が駐在し救援・復興に関する活動を実施。
- ・救援・復興に関する学内関係者の研究・作業スペース「遠野東大センター（TTC）」開設
- ・国際沿岸海洋研究センター（岩手県大槌町）の被害把握と復興活動

独立行政法人防災科学技術研究所

- ・遠野市、陸前高田市に拠点を設置
- ・写真やアルバムなどの思い出のデジタルアーカイブ
- ・釜石市における災害対応に関する記録の収集 等を実施。

神奈川大学

- ・学生と教職員によるボランティアを継続的に派遣するボランティア駅伝を実施。
- ・毎週2便、87期までの派遣を12月中旬まで予定。

岩手県沿岸地域の支援ニーズ

・仮設住宅における住民同士のふれあいを促進する活動は引き続きニーズが高く、しかし専門職員の人手は不足しているため、引き続き「傾聴ボランティア」等の、看護士や保健士の助けとなる活動への支援ニーズは高いとのことです。

・遠野まごころネットに登録・活動する1日あたりのボランティア数は減少傾向にありますが、支援の「ソフト活動」へのシフトもあり、引き続き多くのボランティアが求められています。

・被災者を励ますイベントは多数企画されていますが、被災者の方々や現地支援者の「支援疲れ」も心配されているとのこと。

・冬のボランティアニーズの変化に向けて、各支援組織では、比較的積雪や凍結が少ない沿岸地に宿泊拠点を整備し設ける例も出てきています。

・被災者の方々への暖房器具、布団等の支援に向けたニーズ確認が引き続き実施されています。応急仮設住宅への入居者は災害救助法の適応がありますが、みなし仮設住宅は希望すればNGOからの物資提供に向けた調整が進められています。

・親戚宅や知人宅等への間借りによる避難の場合、本人が自治体に届け出ない限り、避難状況の把握が難しく、災害救助法による支援対象にもならない状況もあり、関係組織の連携による情報収集や支援の検討が行われています。

・沿岸地域で暮らしていた高齢者には、今回の地震で都会に暮らす子どもの家に身を寄せた例も多くありますが、都会での便利な暮らしや、周囲の過剰な気遣いによってストレスをためたり、することがなく退屈な毎日に耐えかねて、トラブルになったり、沿岸地にふたたび転居してくる例もあるとのことです。

復興+R基金・被災学生支援金 第2次募集 出願受付中

立命館大学は12/9まで、APUでは12/16まで学生・院生からの出願を受け付けています。

< 私たちの提案 > < 研究推進 > 進捗レポート

< 東日本大震災復興のための「私たちの提案」 > 進捗レポート

宗本晋作 理工学部准教授「簡易集会所の建設プロジェクト」

東日本大震災復興のための「私たちの提案」-教職員の取り組み（第1次募集）-で採択された理工学部建築都市デザイン学科宗本晋作准教授による宮古復興支援プロジェクト-ODENSE-では現在、宮古市重茂第2仮設住宅（13世帯）敷地内において理工学部院生と、学部生計約20名が住民交流のための簡易集会所を建設中です。

竣工は11月27日（日）を予定しています。

【詳しくはこちら↓】

<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/basic/article/news.html/?id=94>



< 研究推進 > 進捗レポート

2011年度 東日本大震災に関する研究推進プログラム採択研究がAERA（朝日新聞出版）誌上に「未来へのおくりもの」として掲載を開始。11/14発売号では西浦敏信 情報理工学部准教授の「避難所における音環境の快音化」、11/21発売号では仲谷善雄 情報理工学部教授の「被災者の心を支える、『思い出工学』」が掲載されました。また、今後も2月末にかけて順次掲載していく予定です。ぜひご覧下さい。記事は[RSWEB]サイト内：未来へのおくりものでもお読みいただけます。

<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/category/okurimono/>

立命館未来プロジェクト 第5回フォーラム 開催のお知らせ

『日本経済が直面する課題に大震災と原発事故が与えた影響-財政危機と地域再生の視点から-』 今回のフォーラムは、第2回に引き続き国際地域研究所と共同で開催し、東日本大震災と原発事故からの復旧・復興に向けて、問題の解明と理論的な考察、具体的な政策提言を進めていくために、財政危機と地域再生という視点から大震災と原発事故を捉えて幅広く議論していきます。

【日 時】12月2日（金）18:00～20:00

【会 場】キャンパスプラザ京都

6階 第1講習室

<http://www.consortium.or.jp/>

【対 象】どなたでもご参加いただけます

【プログラム】

第一部 基調講演

神野直彦氏 地方財政審議会会長

（東京大学名誉教授）

第二部 神野直彦氏との討論、質疑応答

討論者：中川亮平 国際関係学部講師

司会進行：高橋伸彰 国際地域研究所長

【詳しくはこちら↓】

<http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=45181>

< 立命館 未来プロジェクト >

立命館未来プロジェクトでは自然科学系・人文社会、科学系および横断的な分野のテーマで継続的にフォーラムを開催を予定しています。

+R for FUTURE

さまざまな人の+R for を 紹介するポスターが出来上 りました。

復興支援活動に、今、たくさんの学生・教職員が関わり、思いをひとつにしたい、その思いの輪をもっと広げていきたい、ここ立命館大学で学び、研究し、活動することで得た知識や行動力を復興支援活動に活かしたい、といったコンセプトのもと生まれた「+R for FUTURE」という言葉。もうご存知でしょうか。キャンパス内で、さまざまな人の+R for を紹介するポスターがこのたび出来上がりました！！第1弾のポスターは全部で7種類。今後もポスターの種類は増えていく予定です。

[RSWEB]サイト内：特集「+R for FUTURE」ではすべてのポスターがご覧いただけます。

一人ひとりの+Rを未来のために。

+R for ()

()の中に、あなたの想いを入れてみてください。[RSWEB]サイトでは、みなさんからのメッセージも紹介されています。

<http://www.ritsumei.ac.jp/rs/category/>



これからの主な取り組み

○東日本・家族応援プロジェクト in ふくしま 2011 （応用人間科学研究科）

9月の青森県むつ市、11月上旬の岩手県遠野市に続き、11/29～12/4に福島県福島市（会場：チェンバおおまち）で家族まんが展や家族応援セミナー、遊びのワークショップなどが開催されます。

○ベースボール・クリスマス 2011 in いわき

立命館とプロ野球選手会との包括協定、今年度の復興支援の位置づけ（テーマ「FOR OUR KIDS」）とも関わって、12/4の福島県いわき市での企画や岩手県の陸前高田市・大船渡市へのベースボール・キャラバンに学生スタッフが参加します。

○スポーツ健康科学部の岩手県大船渡市内中学校への運動支援

10/24の赤崎中学校につづき、12/12に第一中学校、大船渡中学校の先生方へのヒアリング調査を実施します。

< それぞれの取り組みの詳細については、今後、HPや瓦版でお伝えします >

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています

編集後記

現地の状況や立命館の取り組みを紹介する瓦版を定期的に発行していきます。今回の準備号はいかがでしたでしょうか？

みなさんの震災に関わる取り組みといった情報とともに、ご意見・ご感想ぜひお寄せください。

立命館大学災害復興支援室瓦版【準備号】

発行人

編集 立命館災害復興支援室

Tel 075-813-8130（総合企画課内）

メール 311fukko@st.ritsumei.ac.jp